

行政視察報告書

令和 6 年 10 月 17 日

長浜市議会議長様

長浜市議会議員 藤井 登



私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 恵風会行政視察
2. 視察期間 令和 6 年 10 月 7 日(月)～10 月 9 日(水)
3. 視察場所及び目的
 - ①「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションについて」
利府町まち・ひと・しごと創造ステーション tsumiki
宮城県宮城郡利府町
 - ②「災害の伝承について」について
大川震災伝承館・南三陸 311 メモリアル
宮城県石巻市・宮城県本吉郡南三陸町
 - ③「南三陸病院について」について
南三陸町役場
宮城県本吉郡南三陸町
 - ④「文化遺産の継承について」
道の駅平泉世界遺産ガイドセンター・平泉文化遺産センター
岩手県西磐井郡平泉町

4. 調査内容感想等

①「利府町まち・ひと・しごと創造ステーションについて」

・視察の目的

本視察は、宮城県利府町のまちづくりや地域の特性、施策の実施状況を把握し、本市における地域活性化および人口減少対策に資する知見を得ることが目的です。また、利府町の「挑戦する姿勢」や「若者が集まり育ちやすい環境づくり」

の取組について学び、これを今後の政策立案に活かす可能性を模索します。

・視察の内容

1. 地理的特性と利便性

- 利府町は、北緯 38 度 19 分、東経 140 度 58 分に位置し、宮城県のほぼ中央部に位置する町です。
- 町の総面積は 44.89 平方キロメートルで、東西は約 12 キロメートル、南北は約 7 キロメートルの範囲にわたります。
- 東は松島町、西は富谷市、南は仙台市や多賀城市、塩竈市、北は大和町と大郷町に接しています。

2. 歴史と背景

- 古代は多賀城の国府に接しており、近世には仙台城下に近かったため、北方の要衝として栄えました。
- 現在では仙台市の中心部から約 30 分圏内で通勤・通学が可能なベッドタウンとしての役割も果たしています。

3. 人口動向と施策

- 平成 27 年度までは新興住宅団地を中心に人口増加が続いていましたが、平成 28 年度以降は横ばいとなっています。
- 町は合併を行わず、地域のアイデンティティを大切にし、持続的な発展を模索しています。

4. 取り組みの特徴

- 拠点施設の設置により、町の活性化が促進されています。
- 「大きすぎない町」の特性を生かし、ハードルの低い形で施策を試みる柔軟な姿勢が特徴です。
- 「とりあえずやってみる」という実践的な姿勢が、創造的なアイデアを実現しやすい環境を作り出しています。
- 若者を集めやすく、育てやすい環境整備にも注力しています。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

1. 実験的な施策の導入と実行力の向上

- 。 利府町のように「とりあえずやってみる」という姿勢を取り入れ、失敗を恐れず柔軟な施策を試行する環境を整えます。

2. 拠点施設の活用と持続的发展

- 。 拠点づくりを通じて地域の活性化を促す方法は、本市のまちづくりにも応用可能です。施設がコミュニティの核となることで、住民の交流を促進し、地域の底力を引き出します。

3. 若者の定着と育成環境の整備

- 。 若者が集まりやすく育ちやすい環境の整備に注力し、子育て支援や教育の充実を図ります。具体的には、ハードルの低いイベントやプロジェクトの実施を通じて若年層の地域参加を促します。

4. 地域アイデンティティを重視した施策の推進

- 。 本市も利府町のように地域の個性を大切にし、住民が誇りを持てるまちづくりを進めます。合併を行わず独自の発展を目指す利府町の姿勢は、本市の自治意識の向上に向けた一つのモデルとなり得ます。

まとめ

利府町の視察を通じて、地域特性を生かした柔軟な施策や若者の定着に向けた取組の有効性を学ぶことができました。本市においても、これらの知見を積極的に取り入れ、地域活性化や持続可能なまちづくりに向けた政策を推進してまいります。



利府町まち・ひと・しごとステーション
tsumiki

②「災害の伝承について」について 大川震災伝承館

・視察の目的

東日本大震災における大川小学校の悲劇から学び、学校における防災体制や避難計画の見直し、災害発生時の適切な意思決定の在り方を検討することが目的

です。震災伝承館での展示を通して、学校教育における防災教育の重要性を再確認し、災害に備えた地域全体の意識向上を図ります。また、本市の学校や地域防災計画に活かすべき教訓を得ることも目的とします。

・視察の内容

1. 大川小学校の震災遺構の視察

- 大川小学校は東日本大震災の津波により、児童 108 名中 74 名、教職員 10 名が犠牲となった悲劇の現場です。校舎の一部は震災遺構として保存されており、慰霊と追悼の場として公開されています。
- 視察では、震災当日に発生した避難判断の遅れや、避難計画の不備についての話をお聞きしました。具体的には、裏山への避難を選ばなかった理由や、50 分間校庭に留まった経緯が問題として指摘されていました。

2. 大川震災伝承館の見学

- 大川小学校の敷地内にある伝承館では、震災前後の写真や地域模型、実物資料を展示することで、当時の状況を伝えています。
- 展示では、避難判断の遅れや、避難先をめぐる議論の不備、津波が予想を超えて川を遡上した経緯が紹介され、事前の防災計画の不備が悲劇につながったことが強調されていました。また、事故に関する裁判の経緯についても詳しく学びました。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

1. 学校の防災計画の見直しと避難訓練の強化

- 本市の全ての学校で避難計画を再検討し、災害時に迅速で的確な判断ができるよう、日常的な防災訓練を強化します。特に、複数の避難経路を確保し、実地で訓練することを徹底します。避難判断が遅れることがないように、訓練では即時避難の重要性を強調します。

2. 学校現場におけるリーダーシップ教育の導入

- 教職員向けの防災研修を充実させ、災害時の迅速な意思決定力を育てます。災害発生時においても指揮系統が混乱せず、教職員が一

貫したリーダーシップを発揮できるよう、定期的な研修とシミュレーションを実施します。

3. 地域防災教育の推進

- 。 伝承館の取り組みを参考に、本市でも地域住民と連携した防災教育プログラムを導入します。震災の教訓を次世代に伝えるため、地域住民参加型の避難訓練やワークショップを積極的に企画します。

4. 災害遺構の保存と防災意識の啓発

- 。 本市でも、災害の記憶を風化させないため、災害遺構の保存や展示を検討します。震災の記憶を伝える場所を設けることで、住民の防災意識を高め、「自分事」として災害を捉えるきっかけを提供します。

まとめ

大川小学校の悲劇は、避難の遅れや計画の不備がどれほど多くの命に関わるかを強く示しています。本市では、同じ過ちを繰り返さないために、学校と地域が一体となった防災体制を強化し、災害時にも的確な判断ができるまちづくりを目指します。防災教育を徹底し、住民一人ひとりがリーダーシップを発揮できるような環境を整え、災害に強い地域社会を構築していきます。



大川小学校



大川震災伝承館

「災害の伝承について」について 「南三陸 311 メモリアル」

・視察の目的

東日本大震災の教訓を伝える「南三陸 311 メモリアル」の展示・体験を通じ、防災意識を再認識するとともに、災害に強い地域づくりの方策を学ぶことが目的

です。特に、住民の避難行動や震災復興のプロセスから学び、本市における防災・減災対策および地域のレジリエンス（回復力・しなやかさ）強化につなげることを目指します。また、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代におけるリーダーシップの在り方についても、本市や地域企業の危機対応力向上に活かします。

・視察の内容

1. 展示内容の視察

- 東日本大震災に関する基本情報の展示、地域住民の証言映像、シアター、アート展示を見学しました。
- シアターでは、南三陸町民の体験をもとにしたドキュメンタリー証言映像を上映し、防災を自分事として捉えることの重要性が強調されていました。

2. アート展示の見学

- 世界的に有名なアーティスト、故クリスチャン・ボルタンスキーの作品が展示されており、「自然とともに生きることは壊れやすいが、そう見えながらも続いていくもの」というコンセプトに触れました。

3. 復興の状況確認

- 2階展望デッキから、復興祈念公園や志津川湾を一望し、町の復興状況を確認しました。視覚的な復興の進展が見えることで、復興支援活動の大切さを再確認しました。

4. 避難行動の体験とワークショップ

- 住民の命を救った避難経路の体験を通して、即時避難の重要性を実感しました。特に、南海トラフ地震の最大被害想定で約17万人の命が即時避難によって救えることが示され、防災教育の必要性が強調されていました。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

1. 即時避難を促す防災教育の強化

- 。 南三陸の避難行動の教訓を踏まえ、津波や災害発生時の即時避難を徹底するための教育プログラムを強化します。住民が「自分事」として防災を考え、素早く行動できるような啓発活動を展開します。

2. 企業との連携によるリーダー育成とレジリエンス向上

- 。 企業と連携し、リーダー育成プログラムを実施することで、災害対応力と社会貢献を両立できる体制を整えます。リーダーシップ研修を通じ、災害時にも適切に対応できる人材を育成します。

3. 地域コミュニティの防災拠点整備

- 。 避難経路の明確化や防災拠点の整備を進め、住民が迅速かつ安全に避難できる環境を構築します。復興祈念公園のような象徴的な場所を設けることで、災害の教訓を後世に伝え、防災意識の向上を図ります。

4. アートと防災の融合による心のケア

- 。 防災と文化を融合させた取り組みを推進し、住民の心のケアを重視します。本市でもアートやコミュニティイベントを活用し、災害後のメンタルケアに取り組みます。

まとめ

南三陸 311 メモリアルで得た教訓を活かし、本市の防災・減災対策をさらに強化します。住民と企業が一体となってリーダーシップを発揮し、災害に強いまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティのレジリエンスを向上させていきます。



南三陸 311 メモリアル



防災対策庁舎

③「南三陸病院について」

・視察の目的

本視察の目的は、東日本大震災の被災地である南三陸町における「南三陸町震災復興計画」の一環として設置された医療・福祉施設の先進的な取組を学び、地域住民の安心な暮らしを支える施設の設計・運営について参考にすることです。高台移設による安全性の確保と、子どもから高齢者、しょうがい者まで幅広い世代に対応するケア体制を把握し、本市の医療・福祉サービスの充実に繋げる方策を検討します。

・視察の内容

1. 施設全体の概要と特徴

- 南三陸病院・総合ケアセンター南三陸は、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた旧公立志津川病院に代わる新拠点として、高台に移設されました。地域住民が安心して暮らせるよう、医療・保健・福祉の機能が一体化されています。
- 病院棟とケアセンター棟の玄関をつなぐ「みなさん通り」は、両施設のシンボル空間となり、住民や利用者が交流する場を提供しています。

2. 病院棟の施設構成と設計の工夫

- 1階には事務管理部門、訪問看護、手術部門、透析部門が設置され、医療業務の効率化が図られています。
- 2階には外来部門、救急部門が集約され、緊急時の動線が整備された口の字型構造により、患者やスタッフの移動がスムーズになる設計が特徴です。
- 3階の病棟では、各所にトップライトを設置し、自然光が病室全体に取り入れられる工夫がなされています。4床室の廊下側ベッドにも光が届くことで、患者の心理的負担を軽減します。

3. ケアセンター棟の機能と地域連携

- 1階には、保健・福祉業務を行うオープンカウンターがあり、住民

が利用しやすい窓口が整えられています。

- 。 2階は地域活動の拠点として、大会議室、子育て支援、地域活動支援のスペースが設置されています。また、社会福祉協議会も入居し、地域住民同士の交流を促進する場を提供しています。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

1. 医療・福祉機能の一体化の推進

- 。 本市においても、医療、保健、福祉のサービスを一体化する拠点を整備することで、住民の利便性を向上させることが検討されます。特に、高齢者や障がい者支援、子育て支援の機能を集約することで、地域全体で支え合う環境を整備します。

2. 住民参加型の福祉拠点の整備

- 。 南三陸の「みなさん通り」に象徴されるように、住民が気軽に集える交流スペースの導入を本市の施設でも検討します。地域活動の支援拠点を設けることで、住民同士のつながりを強化し、コミュニティの絆を深めます。

3. 災害復興計画への応用

- 。 南三陸町の事例を踏まえ、本市でも災害時の医療・福祉サービスの維持と復旧計画を策定し、迅速な対応ができるよう備えます。特に、緊急時に避難拠点として機能する施設の整備と、地域との協力体制の構築が重要です。

まとめ

南三陸病院・総合ケアセンター南三陸の視察から得た知見は、本市の医療・福祉サービスの充実に向けた貴重な参考資料となりました。災害リスクを軽減しながら、地域住民が安心して暮らせる環境を整備するため、医療・福祉拠点の充実を推進し、地域と連携した持続可能なまちづくりを目指します。



南三陸病院



南三陸町役場

④「文化遺産の継承」 道の駅平泉世界遺産ガイダンスセンター

・視察の目的

平泉世界遺産ガイダンスセンターは、日本の歴史的・文化的財産である「平泉の文化遺産」を世界中に発信し、後世へ継承するための拠点施設です。本視察の目的は、当センターの展示や運営方針を学び、本市における文化遺産の保存・活用を推進するための参考にすることです。さらに、同センターで導入されている教育的手法やデジタル技術の活用について理解し、市の観光振興や文化遺産保護活動への応用を検討します。

・視察の内容

1. 施設概要と常設展示の特徴

- 平泉世界遺産ガイダンスセンターは、令和3年11月に開館し、世界遺産「平泉」の構成資産や柳之御所遺跡からの出土資料を展示しています。センターは、世界遺産への周遊拠点として、訪問者にその価値と背景を分かりやすく伝えることを目的としています。

2. 展示内容と学習支援機能

- 平泉インフォメーション

世界遺産「平泉」の基礎知識や関連遺跡を紹介。広域衛星写真やフィールドガイドを用い、訪問者が各遺産の位置関係や特徴を理解できるように構成されています。

- プロローグシアター

ワイドスクリーンと床面映像を活用し、「平泉」に息づく仏教文化や「仏国土（浄土）」の世界観を臨場感たっぷりに紹介する映像展示。

- 平泉の世界

奥州藤原氏による仏国土の表現や歴史的歩みを解説。プロジェクションマッピングを使った地形模型の展示や「毛越寺池中立石」の模型も展示されており、訪問者が視覚的に理解しやすい構成が特徴です。

- 柳之御所遺跡と奥州藤原氏

柳之御所遺跡の政庁・居館の様子をジオラマで再現し、発掘資料をカテゴリー別に展示。奥州藤原氏の暮らしや季節ごとの営みをインタラクティブコンテンツ（情報を一方的に発信するのではなく、ユーザーからの反応や希望を反映させるコンテンツ）を使って紹介する工夫もされています。

3. 調査・研究活動と周遊拠点としての役割

- 柳之御所遺跡の調査や研究を進めるとともに、出土資料を保存・展示し、地域の文化的価値を伝えています。また、世界遺産平泉と周辺地域の遺跡を結ぶ周遊拠点として、観光促進の一翼を担っています。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

1. 地域文化の保存・活用の推進

- 平泉世界遺産ガイダンスセンターでの展示方法を参考に、本市においてもデジタル技術やインタラクティブな展示を活用することで、文化遺産への理解を深める取り組みを推進します。また、地域の遺産を保存するための調査・研究活動を強化し、次世代への継承を目指します。

2. 観光振興と周遊拠点の整備

- 平泉のように、文化遺産や観光資源を活用して訪問者の興味を引きつけ、地域内の観光スポットを結ぶ周遊拠点を整備することが有効です。本市でも、歴史的資産や文化施設を結ぶ周遊ルートの構築や、観光案内施設の設置を検討します。

3. 市民参加型の文化活動の展開

- 平泉で行われている地域遺跡の保存活動や文化財保護の取り組みは、市民参加を促す上で非常に参考になります。本市でも、市民や地域団体と協力した文化活動やイベントの開催を推進し、地域の魅力を高めていきます。

まとめ

今回の視察で得た知見は、本市の文化遺産の保存・活用、観光振興、公共施設の運営にとって有益なものでした。地域の歴史や文化を効果的に伝えるためのデジタル技術や展示手法、観光拠点としての運営方針を積極的に取り入れ、文化遺産を地域の発展に繋げる取り組みを強化していきます。



平泉世界遺産ガイダンスセンター

「文化遺産の継承について」 平泉文化遺産センター

・視察の目的

平泉文化遺産センターは、世界遺産に登録された「平泉の文化遺産」の魅力をわかりやすく伝えるためのガイダンス施設です。本視察の目的は、当センターの運営方針や展示手法を学び、本市における歴史・文化遺産の保存活用、観光振興の施策に生かすことです。また、VR技術や多言語対応の活用事例を把握し、外国人観光客を含めた訪問者の利便性向上策を検討するための参考にします。

・視察の内容

1. 展示と解説の工夫

○ 時系列に基づく歴史の紹介

安倍氏の時代から奥州藤原氏の時代、現代までの平泉の歴史がわかりやすく説明され、訪問者が一連の流れで地域の変遷を理解できる構成となっています。

- 。 立体的な紹介「よみがえる平泉の時空」

地形模型を用いて、映像や音声を交えた展示により、平泉の町を掘り起こし、その歴史を読み解く視点を提供。町内から出土した遺物も展示され、歴史的背景を裏付ける資料として紹介されています。

2. VR スコープの貸出サービス

- 。 主要遺跡の再現映像の体験

VR スコープを活用することで、無量光院跡、柳之御所遺跡、毛越寺大路の賑わいや金鶏山の当時の様子が再現され、訪問者は臨場感あふれる歴史体験が可能です。

3. 多言語対応と学習環境の整備

- 。 4 カ国語に対応した音声ガイド

外国人観光客への対応として、英語を含む 4 カ国語に対応した音声ガイドを提供。訪問者が自分のペースで見学でき、異なる言語圏の観光客にも平泉の魅力が伝わります。

- 。 芸術文化活動への対応

センター内にはふれあいホールや研修室、和室があり、地域住民や訪問者がさまざまな芸術文化活動を行える環境が整っています。

・ 行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

1. 文化遺産の保存と活用の強化

- 。 平泉文化遺産センターのように、本市の歴史や文化遺産を効果的に展示し、地域の魅力を引き出すための施設整備を検討します。特に出土資料や歴史的背景を裏付ける展示を強化し、市民の歴史理解を深める場を提供します。

2. VR 技術の活用による観光体験の向上

- 。 平泉での VR 技術の活用を参考に、本市でも主要な歴史・文化施設において、VR 体験やデジタル技術を導入し、観光客に新たな視点で地域の魅力を伝える取り組みを推進します。

3. 多言語対応の強化

- 。 4 カ国語の音声ガイド提供事例を参考に、本市の観光案内所や文化

施設においても、多言語対応を強化し、外国人観光客の利便性を向上させます。また、簡易な QR コードを活用したガイドの導入も検討します。

4. 地域住民との連携による文化活動の活性化

- 。 平泉のふれあいホールや研修室の活用事例を参考に、本市でも市民が芸術文化活動を行える拠点を整備・活用し、地域の文化活動の活性化を目指します。

まとめ

平泉文化遺産センターの視察を通じて、歴史・文化遺産の効果的な展示手法や、VR 技術を活用した観光体験、多言語対応の重要性を学ぶことができました。本市でも、これらの取り組みを積極的に取り入れ、市民と観光客双方が地域の歴史と文化を楽しみながら学べる環境づくりを進めてまいります。



平泉文化遺産センター